

伊賀市にぎわい忍者回廊整備（忍者体験施設等整備）事業

ワークショップ 図書館のつくりかた みんなで作る 新しい図書館

第3回 みんなで作る新しい図書館
～学び・創造・憩いの広場、交流型図書館として～

報告書

令和5年（2023年）3月

(株)伊賀市にぎわいパートナーズ

目次

I	ワークショップ開催概要	1
	1. 開催目的	2
	2. 開催概要	2
	3. プログラム内容	3
II	グループディスカッション結果	8
III	模造紙写真 [付録]	13
【参考】	アンケートへの回答から(一部抜粋)	18

Ⅰ ワークショップ開催概要

1. 開催目的

本業務は伊賀市にぎわい忍者回廊整備（忍者体験施設等整備）事業の整備に向け、地域の人々や観光客による施設のにぎわい創出やユーザビリティ向上のため、多様な意見を集約し、施設の価値向上を高めることを目的とする。

また参加者の意見交換を通して、住民の相互理解を促進する機会とし、参加者からの意見等については、施設サービスの内容等を検討するための基礎資料として整理することも目的とする。

2. 開催概要

日 時：令和5年3月26日（日）午後2時～4時

会 場：ハイトピア伊賀 5階多目的大研修室

対 象 者：伊賀市在住・在勤・在学（児童・生徒）・近隣の市町村在住の方

定 員：40名程度

（応募者多数の場合は年齢や地域等のバランスを考慮した上で抽選）

告知方法：チラシ、HP掲載、Facebook、文字放送、記者発表

申込方法：申込フォーム、FAX、図書館（室）カウンターへの提出

申込期限：令和5年1月22日（日）

参加者数：42名 内当日参加者32名

チラシ（表）

チラシ（裏）

参加者内訳

年齢	人数
10歳未満	0名
10代～20代	7名
30代～40代	5名
50代～60代	10名
70代～80代	10名
合計	32名

3. プログラム内容

(1) 第3回 テーマ

みんなでつくる新しい図書館
～学び・創造・憩いの広場、交流型図書館として～

(2) タイムスケジュール

13:30 開場・受付

14:00 挨拶、本日のスケジュール、本事業の“現在地” 説明
現在検討中の本施設概要説明、第1回・第2回ワークショップの振り返り
ワークショップのすすめ方

15:00 グループディスカッション
・ テーマ「この施設の計画について楽しみなこと、心配なこと」
全体発表についてのまとめ

15:30 グループ発表

16:00 閉会



(3) 本事業の“現在地”説明

2021(令和3)年10月に伊賀市が事業者を公募した。

「伊賀市にぎわい忍者回廊整備（忍者体験施設等整備）に関するPFI事業」。本事業の目的は伊賀上野城下町の歴史的な町並みの保全やアフターコロナ時代における観光まちづくりによる中心市街地の活性化、さらには市のまち・ひと・しごと創生による持続可能なまちづくりの実現。

具体的には「旧上野市庁舎」改修と「成瀬平馬屋敷跡地」への「忍者体験施設整備」の2本立て。

事業期間は、契約締結日から20年後、2043年(令和25年)の3月末日まで。

我々事業者は、市が設定した上限額の範囲内で事業を遂行していくが、2023年6月末までに基本設計をまとめる。

全3回のWSで出たご意見も踏まえて4~5月で現行案を修正し、6月初旬ごろを目途に市民向けに説明の場を設けることを検討している。

(4) 現在検討中の本施設の概要説明

各フロア図面に「図書館（児童書）」「図書館（一般書）」「カフェ」「観光施設」「宿泊施設」等々を明示したうえで説明。

「旧上野市庁舎」について公募にあたり求められているものは、

i 図書館機能、ii 観光案内・交流機能、iii 観光地域づくり拠点機能である。

これに対し、我々は「図書館機能」と「観光案内・交流機能」がゆるやかに一体となること目指す。そのために

- ①「カフェ」についても上野城側の入り口から同レベルで入ることができるこの位置に設定した。
- ②「観光地域づくり拠点」機能は、「カフェ」との親和性が一番高いので、隣接させることで相乗効果を図る。
- ③これら「カフェ機能」「観光機能」と「図書館」の相乗効果を考え、伊賀・上野のことをより知ってもらうための資料「郷土資料（忍者関係・芭蕉関係など）」を同じフロアに配置する。貴重な「郷土資料」は貴重資料庫で管理
- ④またティーンズ（中高生向け）の資料もここに配置することを想定。カフェからの延長線上に配置することでこれら世代を呼び込みたいと考えている。



⑤1階・中2階全体を見渡すと、図面的に左に進むほど（南西側に進むほど）静かなゾーンになるイメージを考えている「サイレントゾーン」のような設定ができないかも検討する。

(5) 第1回、第2回ワークショップ振り返り

ア こんな施設であれば・こんなことができれば・・・

【地域の魅力発信】

- ①伊賀の忍者や陶芸などを絡めていったらいいのでは。
- ②伊賀の魅力の発信については、伊賀市の財産を紹介するスペースを広くとって欲しい。文化芸術産業で活躍する有名な人を紹介できれば。

【快適な空間として】

- ①空間、音楽、学び、体験などの「癒し」を求める意見が多く出た。
- ②長い時間を図書館で過ごしたい。その時間の中で、食べたり飲んだりできる接点のカフェ以外の場所にも必要なのではないか。
- ③普段自分が好きなアクティビティができる場所であってほしいという意見。本と好きなアクティビティがつながっている接点があると嬉しいという意見があった。

【コミュニティの中心として】

- ①分からないことでも地域の人に色々教えてもらって、新しいアイデアとして自分の夢を拡げていくのもいいのでは。
- ②VRで仕事体験ができたり、働く人のインタビューを見て、興味を持ったり本で調べる場所があると新しいのではないか。

イ 一方で心配の声も

①図書館とホテルの併存

「学習室」への動線とホテルへの動線を明確に区切ることを考えている。

②施設内での酒類の販売や観光機能を発揮するために、土産物として地元銘品である伊賀の地酒等は販売する。

施設内で飲むための酒類の提供については、WSの中で出されていた懸念を運営の中で考慮する。

③集会室機能の有無

・イベントの内容によって旧議場を会場として活用。また2階観光フロア内の仕器の構成を再検討し、一時的に仕器を移動させることでイベント会場として活用できないかも検討。

・ボランティアの打合せ等はミーティングルームを活用。

・ボランティアが使用する物品の保管場所を捻出することを検討。

④児童書コーナーの位置（浸水対策含む）や活用方法について

子どもたちに「隠れ家」的な空間を楽しんでもらいたいという意図でここに配置した。今後の設計の中で、子どもたちが楽しく過ごせるような空間となるよう検討していく。

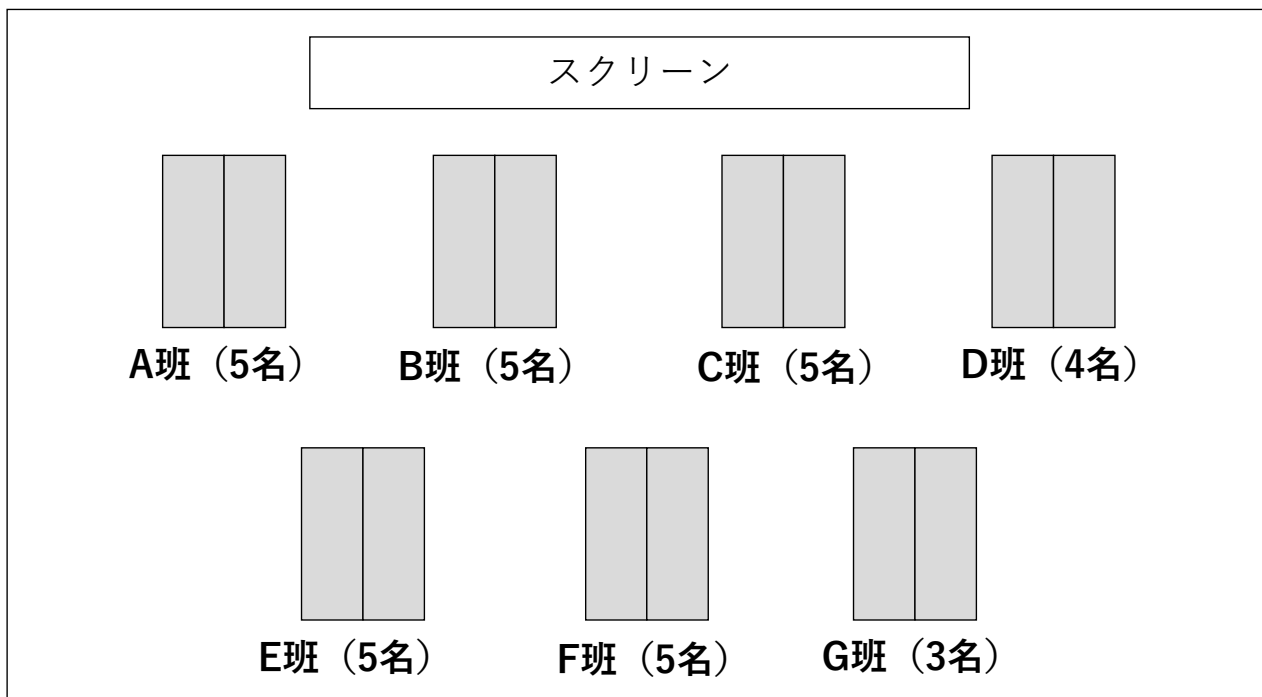
浸水対策については技術的に対応する。

(6) グループディスカッション

説明後、「この施設の計画について楽しみなこと、心配なこと」をテーマにグループディスカッションを実施した。

開催体制

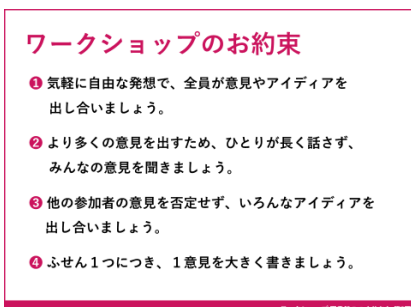
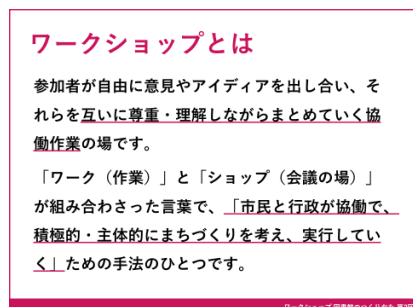
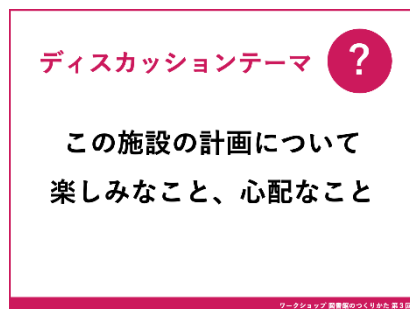
1グループあたり、5名程度、合計7グループに分けて実施。メンバー構成は、年齢や性別が偏らないように受付時に座席を指定した。会場レイアウトは下記参照。



各グループにファシリテーターを配置し、ワークショップの流れやルールについて説明を行った。



ワークショップのルールを説明



(7) グループディスカッションの流れ・様子

グループディスカッションはSTEP 1～STEP 6の構成をもとに進行した。

STEP 1：アイスブレイク（自己紹介）

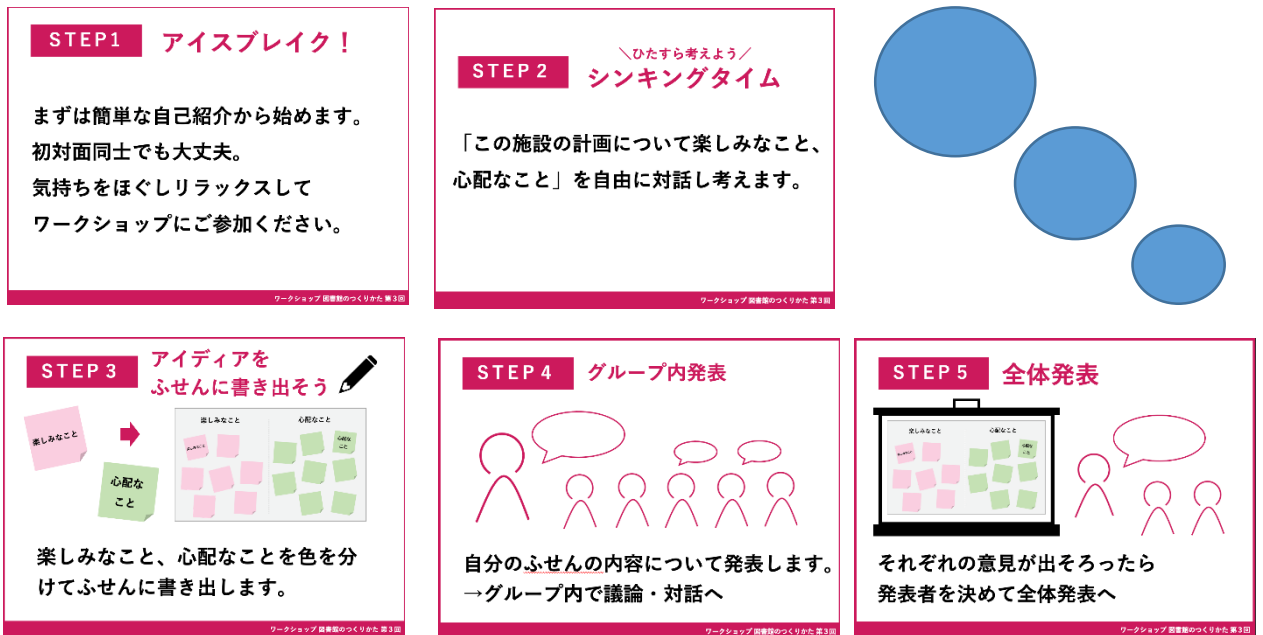
STEP 2：シンキングタイム

STEP 3：アイデアをふせんに書き出す

STEP 4：グループ内発表

STEP 5：全体発表

グループディスカッションの流れ



グループディスカッションの様子



II グループディスカッション結果

今回のワークショップテーマ「この施設の計画について楽しみなこと、心配なこと」についてディスカッションした各グループの議論をまとめて発表

1. ワークショップについて

本ワークショップでは、幅広い年齢層の方が参加され、「この施設の計画について楽しみなこと、心配なこと」をテーマに、新しい図書館に期待することや楽しみなこと、また、不安に感じることをを出し合った。対話を通してより具体的に問題意識や課題も含め共有することができたのではないかと考えられる。

2. ディスカッションで出た意見・アイデア



(1) A班

- 新しい図書館ができるワクワク感。
 - きれいな図書館。市民、宿泊客にとってもワクワクする。
 - 一人でも友達とでもコミュニティとしても楽しい図書館がつくられたらいい。
 - 子供目線での図書館。納得のいく宿泊者、市民にとっても納得いく図書館といった共存はどうなるのか。
- ユニバーサルデザインという点でベビーカー、シルバーカー、車椅子などで誰でも行ける動線の確保ができるのか。
 - 駐車場がどうなっていくのか。図書館利用者は無料なのか。
 - 賑わいのコミュニティとしての図書館も求められるが一方、静かな図書館、子供の空間、大人の空間、観光の空間も作っていく必要がある。

(2) B班

- 最初はこの計画はなんだろうかというところから始まった。市民への周知が不足しているというのが最初に出た。説明はしてほしい。



- 新しい図書館。本をいっぱい置いてもらえる。地域のことが知れるということも楽しみ。
- カフェテリア、緑の空間があるのが楽しみ。
- 子供とお話できる場所ができるのは嬉しい。
- 子供たちの居場所をもっと作ってもらってもいい。
- 駐車場がどうなるか心配。駐車料金どうなるのか。
- 広い空間なので光熱費も心配。
- EV1つというのもごちゃごちゃして心配。
- 医療室があるか。子供が倒れたらどうなるのか。
- 読み聞かせの部屋はいつでも使える。子供たちがゴロゴロできるなど楽しめる場所があるといい。

(3) C班



- 子どものための場所である。子どものために安全が大事。
- 司書はアルバイトではなく、伊賀のことをよく知っている地元の人。漠然としたキーワードでも拾ってもらえる人がいい。
- 子供の興味に答える。
- 児童エリアが狭い。
- 一般書架のところを子供向けに。子供を狭いところへ押し込まないで。

- 2階の学習室が暗い、活用しやすく明るく、中庭の活用を絡めることができれば。
- 観光の交流作りの場所。郷土資料を見るだけではなく観光事務室にならないでほしい。
- 安全に配慮しつつ街の交流拠点になってほしい。

(4) D班



- いい図書館を作って日本中に宣伝する。そうしないと観光客も来ない。
- 忍者を宣伝しているが、他にもいいものがあるが日本の人も知らない。
- 映画が見られる場所ができたらいいなあ、図書館ができることで絆ができたり、外との交流が増えることで地元の人々の心が豊かになると思う。
- 学校の修学旅行などで来てもらって伊賀がこんなにいいところという宣伝もしてもらったらいい。
- 市民へのサービス計画が見えない。これは、市民への周知、説明が不足しているため不安な意見が出る。
- サービス計画、職員の継続性、地元の人たちとの交流がどうなるのか。市民への不安を払拭するように説明する場が必要。

- 市民より観光客が優先しているのでは。これも市民への説明が不足しているからでは。
- 児童室が狭い。閉じ込め感がある。
- 親が安全を確認できるようにしてほしい。囲われた場所ではなく大人と同じフロアを考えてほしい。
- EVが1つしかない。バリアフリーへの対応。
- 駐車場料金の問題。図書館に行く人、ホテル利用者も図書館に行ったことになると安くなる。市の収入減る。
- アルコールを出すという心配。子供の安全が心配。
- 客室から学校が丸見えとなって心配。
- 宿泊客がちゃんとくる。観光客日帰り多いが宿泊してくれる?
- 継続的に市民の意見を聞く場を設けてほしい。聞くだけでなく採用し、修正していくシステムを作ってほしい。

(5) E班

- 新しい取り組みへの知名度がある。地元の自慢になること。子供たちがのびのびと本選びできる。
- 外人との交流、観光への期待。忍者にこだわらず伊賀の他の魅力の発信。
- 音楽を聴きながら読書が可能な場所。
- 司書と学校図書館との連携。
- 新しい図書館像の成功事例にしてほしい。
- 天井が高いので有効利用。
- 書架が低いのでむだなスペースができる。
- 高さへの期待がある。
- 観光を誘致しても周りが寂しかったらどうにもならないので、産業や商業もなんとかしてほしい。
- 年寄り、体の不自由な方、子供たちもこれのような図書館。



(6) F班

- スキップフロアが生み出す多彩な空間表現が建築的に楽しみ。
- 事務エリア、児童書エリアが隣接していて働く姿が見れる。ガラス張りの明るい図書館が楽しみ。
- 忍者コンテンツが集まってくるのが楽しみ。
- 車のない人に優しくしてほしい。伊賀鉄道を無料に。
- コンサートができる場所。出会ったり話しながら読書できたりシニアスペースとして井戸端会議ができる。老人の憩える場所が欲しい。



- 図書館と宿泊施設バランスの取れた共存。
- 南西角は市民も入れて景色が楽しめるホワイエとしての利用。
- 2Fの学習室でいろいろ勉強でき、イベントができることを期待。
- 内装は子供むけに明るい雰囲気。
- 動線計画心配。多目的トイレが1Fしかない。他のフロアにもあるべきである。トイレに行くのに階段、EVを使わずに行けるようにすべきでは。

- WSで出たことだけを免罪符にして欲しくない。その他にも市民も声を聞いてほしい。
- 図書館が主役ではないのか?
- 図書館は教育施設ではないのか?酒気帯びの人が来てもいいのか?という疑問がある。
- カフェがあるが子供たちがお弁当を持って来ても食べる場所はあるのか?

- 地震対策、逃げ込む先としてどういうふうにするのか?1階のガラス部分、地震対策で補強してもらわないと。屋上の有効な使い方はないのか?
- 宿泊施設には階段が多く設けられているが利用者をどのように分けるのか。
- 市民の図書館なので2階の半分以上は図書館として使ってほしい。
- 2/3は図書館として使うべきという意見もあった。
- 2階のセキュリティについて、宿泊客のセキュリティであって図書館利用者のセキュリティではない。
- ホテルがあれば不特定の人がいるのが心配。
- ホテルは24時間空調必要。家庭でも水光熱費の高騰を心配している中、電気代のコスト大丈夫。これで十分に本が買ってもらえるのかどうか心配。
- 客室の給排水工事は大丈夫か。また、荷重も大丈夫か心配。建築的な疑問もある。
- ホテルとしての利用について市民コンセンサスが取れているのか?ホテルを共存させるメリットを周知させる。
- EVが少ない。学習室利用者と宿泊客を分けることは無理ではないか。

(7) G班



- 市民に開かれた図書館になってほしい。おしゃれな空間図書館。
- 忍者だけに頼った観光施設にはなってほしくない。
- インターネット、レファレンス機能の充実。カフェができるのであれば食事もできて1日過ごせる場所であってほしい。別に買い物しなくても使える場所。
- 学習エリアをしっかりと確保。図書館で夜の12時ぐらまで学習できる場所。全席充電機能もある。利便性を高める。学習エリアで飲食もできる。静かにできる場所を十分確保。
- ホテルエリアと混在しているところ。

- お客さんを集めるにしても今の外壁では暗すぎて来てもらえないのではないかと。明るい外壁にしてはどうか。

III 模造紙写真 [付録]

A班

グリーンのある空間

きれいな図書館

楽しい図書館

新しい形の図書館

伊賀市の魅力が詰まった図書館

新しい図書館を
読み向かへミニコン
パート 講演会を
南に欲しい。
みんなスペースか
とれることに期待
したい。

(人)行っても
旅美人の行っても
楽しい図書館

(楽し) 本と明るい中で本が
見れるのは 良いですね

ホテル客との接点
(タイムシェアリング)
(エレベーター)

増書。ゆい子との絵本。
子供の本(子供)が...)
子供の本(子供)が...)

心配なこと...

学習スペースの確保
(現在の、上野図書館の
学習室の満席の状況...)

駐車場
料金問題

安全安心な
施設であって
欲しい。
ホテルと一緒に
大丈夫?

(心配)
△ ホテルの別の階に設けたい
欲しい。
(ホテルの空室利用は可能か?)

2Fの学習室の2階の(子供)が
大人数の
利用

本屋の読本棚は各フロア
ごとに設置してあり
良いです

宿泊の推奨
空間と併せて
思いを

静と動の区分け
コンクリート

B1Fの
つぎあたりの
洗面所は空

近年に建てた多くの
市民館は多目的用途
と不特定の人々利用
するホテルの存在は
考えにくい。
みんな下向きな新しい
図書館。これはホテル
は要らない。宿泊の
できる公共図書館。そ
うは望んでいない

ホテルの存在
(共存)

安全面

広くていいか?
書架、エレベーター
(ベビーカー 車椅子
シルバーカー)

ホテル客との接点
(タイムシェアリング)
(エレベーター)

安心・安全な
空間の確保?

ユニバーサル
デザイン

子どもとホテル
利用者の接点 (共存)
安心安全面から心配

伊賀上野は文化遺産 伝統の
街。古文書貴重資料 郷土
資料等の保存管理が不安
立派な貴重資料 郷土資料
も欲しい。

D班

楽しみなこと

学校への
体験学習
修学旅行の
社会見学に来てもいい

CMと(わりと)
やりまはう

集会室で、ホテル室
も利用者と、郷土の
資料の講演会を
開ける

映画が観えたら
どうかな? 楽し
いかな?

地域の市民の心
をゆかにするな
端に出来るように

絆。出来る関係
外野が入れる様に

D 班

心配なこと

学習室の廻りに
ホテルの客室が
あり子ども自由
に行かせ
られない

アルコールを出す
ホテルで子ども
の安全が心配

西側客室から
西小学校の校門
が見える

宿泊室は
来てるかな?
観望室は日中
閉まる

先計画が見える
限りの計画
が見える

光熱水費が
増えるのはないか?

日航の継続性
が心配

駐車場の料金が
減るのでは

水・電・ガス
どこかに増える

市民の意見
優先?

子ども用の
増設室は必要?
→ 仕切りが必要

児童と成人が別
利用が難しい

大人の分
(児童エリアに
見守りの
人が欲しい)

大人と子ども
は同じフロア
がいい
→ 見守り
が必要

日航の心配

児童が降り
たベランダが
パリアフェ
スバーを
立てたい

E班

心配な事

図書館司書の
専門性

セキュリティ
強化

機能

運営

E 班

楽しみな事

期待

知名度

コトジ-効果

E 班

【参考】アンケートへの回答から

ワークショップ終了後、ワーク内で発言できなかったこと、言いそびれてしまったことなどがあれば、アンケート形式で記入(無記名)いただき、退出時回収。

■ 2階の宿泊施設エリアの半減

- 市の収入として20室が必須なものとは思いますが、日を限定して入室できる日もあるといいと思います。
- 坂倉作品としてまず利用を考えてください。

■ 図書館は2番目で良いと思います。

- 観光はレファレンス機能の充実によって、大変、世界から注目されると思います。
- 榊莫山や元永の作品が、生える建築と思います。

■ 伊賀に新しい図書館、とてもワクワクしています。

児童書エリアをどこに配置するかは、とても難しいなと感じました。私は今日いただいた案がいいなと思いました。子どもが多少声を出しても、静かに本を読みたい人の邪魔にならないからです。(いつも子どもと図書館に行くとき、ご迷惑でないかヒヤヒヤしているので)

■ 他の方のもっと子どもたちのエリアを広く、ひらかれるべき、という意見も納得できるものでした。ただ、それによって他の方の居心地が悪くならないか不安です。

■ 学習室は全ての利用者が心地よく過ごせるように、やはりある程度の数の確保は必ず求められると思います。学生時代、私も早くに行って場所取りをしてしまいましたが、時に学生に豊かな学びの場所、時間になればと願っています。
とても楽しみにしています。ありがとうございました。

■ そもそも最後に学習室が必要か?という意見もありました。とにかく説明が不足していて、モヤモヤした部分があります。

■ 説明会と今日でた心配点について改善点を発表、説明してもらおう場をぜひ作ってください。

■ 自分はホテル図書館が三重県にできることが楽しみです。新しい取り組みがうまく行くことを願っています!

■ 現在、郷土資料は資料名を書いて、司書に出してもらおう方式を取っている。本来、どのような資料があるのかを立ち読みしながら本を選ばないと、新しい資料は探せない。セキュリティ対策をとった上で郷土資料を自由に選べる仕組み、スペースを確保してほしい。例えば、忍者研究を目的に来る人もいるので、研究者、市民、観光客、全てに開かれたものにしてほしい。

(一部抜粋)

伊賀市にぎわい忍者回廊整備（忍者体験施設等整備）事業

ワークショップ図書館のつくりかた みんなでつくる 新しい図書館 報告書

第3回みんなでつくる新しい図書館～学び・創造・憩いの広場、交流型図書館として～

令和5年（2023年）3月発行 / 編集（株）伊賀市にぎわいパートナーズ